

「環境まちづくりプロジェクト」第5回ミーティング議事録

日時：平成28年11月12日(土) 14:00～18:00

場所：ブロッサムカフェ 3F ルーム A

出席者：竹原，久，道岡，山崎，森本，佐野，溝渕，濱砂，谷口，松井，麓，高野，柳原，田中，
中田，野田，上崎，河上，新井，高橋，大洞，奥村，
経済学部 総合経済政策学科所属の学部生 5名

配布資料： 1) 「環境まちづくりプロジェクト」活動報告
2) 「環境まちづくりプロジェクト」第4回ミーティング議事録
3) 環境まちづくりプロジェクト視察会の案内（千葉県柏市豊四季台地域）
4) 上崎先生，佐野先生，奥村先生，柳原先生 講演資料

14：00～14：05 プロジェクトリーダー挨拶

総合社会学部 久 隆浩 教授

14：05～14：30 活動に関連する報告と意見交換

理工学部 麓 隆行 准教授・溝渕 昭二 准教授

14：30～15：00 話題提供1 「都道府県と市町村の役割の相違

-景観計画を手掛かりとして-

法学部 上崎 哉 講師

15：00～15：30 話題提供2 「衛星を用いた大気環境モニタリング」

理工学部 佐野 到 教授

-- 10分休憩 --

15：40～16：10 話題提供3 「高齢社会における高性能住居、健康まちづくり

-WHO 神戸センター共同研究- について」

医学部 奥村 二郎 教授

16：10～16：40 話題提供4 「高齢者の健康維持における外出・交通の役割」

理工学部 柳原 崇男 准教授

16：40～18：30頃 懇親会（ブロッサムカフェ ルーム B）

軽食，立食形式，会費 2000 円

1. プロジェクト活動報告

- 1) 第4回ミーティングの議事録案が示された。修正等があれば理工学部麓准教授まで知らせて欲しい。
- 2) 学内研究助成金は，キャンパス毎に予算執行して欲しいとの案内があった。東大阪キャンパスは麓准教授が取りまとめている。
- 3) 環境まちづくりプロジェクト視察会の案内があった。学内研究助成金の出張費が使えるので，参加希望者は麓准教授まで連絡して欲しい。

- 4) 新しい図書館の建設に伴って設置予定の「実学セル」の活用プロジェクトに応募し、10月26日に久教授、竹原教授、麓准教授がヒアリングを受けた。こちらからいろいろと提案をしてスペースを活用していくことが有効そうである。もしも使用出来ることになれば、ゼミなども含めて積極的に活用できるスペースになりうる。今後も進捗があれば、随時報告していく。
- 5) 理工学部溝渕准教授より、HPの立ち上げに関連した報告がなされた。テスト版 (<http://test.www.kindai.ac.jp/machipro/>) も公開されているので、特に下記の内容についてアイデアや意見を寄せて欲しい。事務局からも、草案を提示していく予定。
 - ・ ロゴマークとファビコンのデザイン案
 - ・ メンバーページの顔写真または似顔絵公開について、専門の記載について。
 - ・ ニュースページ（ミーティングなどのプロジェクト活動や情報ひろば）
- 6) プロジェクトにおける各人の著作権規定について、上崎教授と原案を作成していく予定である。
- 7) 経済学部河上教授らが、東大阪を中心とする産業連関表を作成中であることが紹介された。
- 8) 文芸学部の綱伸也教授、井上貴子准教授、藤井浩章准教授が新たにメンバーに参加する予定である。
- 9) 次回以降のミーティングは12月10日（土）と2月25日（土）に実施の予定。
- 10) プロジェクトのHPにも関連して、写真を並べると男性研究者の多さが目立つので、女性研究者にも積極的にメンバーになってもらってはどうかという提案がなされた。

2. 話題提供

研究交流を目的として、4名の先生による講演が実施された。また懇親会の間でも、今回の各講演テーマを中心に活発な意見交流がなされた。

- 1) 法学部の上崎教授より、「都道府県と市町村の役割の相違 -景観計画を手掛かりとして-」と題して、景観法からみた市町村と都道府県の立場や役割について、行政の二層性やあり方について、講演いただいた。特に、建築確認行政の変化に合わせた、市町村と都道府県の仕事の変容について解説いただいた。また数年前に話題となった大阪都構想について、大阪府市の二限行政を踏まえて解説いただいた。質疑では、「国際社会の中にて、日本の二層性はどのように見ることが出来るのか」「市町村がやるべき仕事と必ずしもそうではない仕事について、どのように考えられるのか?」「二元行政と二重行政の違いは?」などの質問が寄せられた。また参加者からは、環境基本法の運用においては、市町村によってやり方にバリエーションが少ないが、景観法では自治体によるバリエーションが出やすいことなどが紹介された。他にも水道事業を例に、地方によるバリエーションについての意見交換がなされた。
- 2) 理工学部の佐野教授より、衛星を用いた大気環境モニタリングについて話題提供いただいた。研究対象のエアロゾルについての解説では、エアロゾルが温室効果の抑制効果を持つことや、エアロゾルの増加によって空がかすむと、本キャンパスの38号館より望む東大阪の景色が一変してしまう様子なども紹介された。都市の中のエアロゾル観測については、DRAGON-Osakaプロジェクトにて、大阪近郊で観測ネットワークが出来ている。また近畿大が参画する地球観測衛星プロジェクトや本学に設置されているLIDARなどの観測機器を用いた研究例も紹介された。東大阪市の大気情報については、本学のHPからアクセスできるようになっており、誰もがwebを通じて計測情報を見ることが出来る。質疑では衛星より得られる面の情報と、地上観測によって得られる線の情報を組み合わせる解析の進め方等について意見交換があった。
- 3) 医学部の奥村教授より「高齢社会における高性能住居、健康まちづくり-WHO神戸センター共同研究- について」と題して、現在申請中のWHO神戸センターとの共同研究にて目指してい

る健康まちづくり研究の内容と方向性が紹介された。次に現在医学部で進められている、運動不足や光環境の乱れなどの改善を目指した「住むだけで健康になる家作り」では、免疫機能や薬剤感受性などをモニタリングできるバイオマーカーの同定を中心に研究が進められているとの紹介があった。そこで健康まちづくりでは、医療・福祉施設で受けるサービスと同等のサービスを自宅で時間差なく受けられる「まち（居住空間）」をつくり、医療・福祉施設に行かなくても、市民が自宅や近隣施設で医療保険福祉サービスをうけることが可能な環境を整備することを目指している。手法としては、現実的な課題や技術的な隘路を整理し、医学だけでなく理学・工学的な技術や総合化学・行動科学的な観点からも課題解決に向けた研究や開発を推進させたい。目指す成果としては、高額な医療インフラが無い地域や国でも活用できるノウハウを提供し、国際保険に貢献することである。発表を受けて「健康」の対象が広いがどのように捉えるべきか。また「まちづくり」をどのように定義すれば良いかについての意見交換が交わされ、保健の「健」の意味を考えると予防や検査が重視されるという意見や、宝塚市で健康まちづくりを進めている事例の情報が提供された。

- 4) 理工学部の柳原准教授より「高齢者の健康維持における外出と交通の役割」と題して、健康とまちづくりについての話題提供があった。ここでのまちづくりには健康維持とケアの2つの側面があること、また **physical** と **social** の両方の環境の整備が望まれるとの指摘があった。国交省が提唱している健康・医療・福祉のまちづくりにおいては、歩行の重要性が取り上げられているが、特に地方においては車による移動が増えることによって、徒歩移動の割合が下がっている。また外出頻度が下がる「閉じこもり」が進行すると介護が必要となる割合が高くなることから、外出頻度の上昇も健康維持に必要だと考えられている。しかし外出時に交通手段がないと外出頻度が下がることから、高齢者の健康維持に寄与する交通政策の必要性についても説明があった。質疑では健康維持の視点からみると **ADL(Activities of Daily Living)**と **QOL(Quality of Life)**の2つの指標があるが、どちらに重きをおくのか、また外出出来ない人にはどのような社会的役割をになってもらうのか等の指摘に対して、**QOL**の指標化は難しいが、**ADL**は評価指標として用いやすい。また豊中市にて定年後の65歳以上が農業職についたケースでは、自分の役割が明確になると共同作業がうまくいくようになった事例の紹介もされた。

3. 懇親会

メンバー相互の交流を目的に、ブロッサムカフェ ルーム Bにて懇親会が催された。13名の先生にご参加いただき大変な盛り上がりを見せた。前回の分と合わせて発生した4,000円の余剰金については、次回の懇親会に充てる。

記録者：松井 一彰

プロジェクト代表者：竹原 幸生

プロジェクト代表者：久 隆浩